

# 保険・年金 フォーカス

## ドイツの生命保険監督を巡る動向(1) —BaFin の 2018 年 Annual Report より (スポットライト)—

常務取締役 保険研究部 研究理事

ヘルスケアリサーチセンター長 中村 亮一

TEL: (03)3512-1777 E-mail: [nryoichi@nli-research.co.jp](mailto:nryoichi@nli-research.co.jp)

### 1—はじめに

ドイツの生命保険会社の健全性やソルベンシー等の財務状況については、昨今の低金利環境が継続する中で、引き続き注目の的となっている<sup>1</sup>。こうしたドイツの生命保険会社の状況については、これまでいくつかのレポートで報告してきた。

3年前には、ドイツの保険監督官庁である BaFin (Bundesanstalt für Finanzdienstleistungsaufsicht: 連邦金融監督庁) の 2015 年の Annual Report (年次報告書) 及び、IMF(国際通貨基金)がドイツの金融監督に対して行った FSAP (Financial Sector Assessment Program: 金融セクター評価プログラム) の結果を公表した報告書に基づいて、ドイツの生命保険会社の財務状況等に対して、BaFin や IMF がどのような見解を示しているのか、について4回に分けて報告<sup>2</sup>した。

2年前及び1年前には、BaFin の 2016 年及び 2017 年の Annual Report 等に基づいて、ドイツの生命保険会社の状況や業界が抱える課題及びこれらの課題に対する BaFin の考え方等について、それぞれ3回に分けて報告<sup>3,4</sup>した。

今回は、BaFin の 2018 年の Annual Report 等に基づいて、ドイツの生命保険業界の監督に関するデジタル化や Brexit といったトピックやソルベンシーII がスタートしての3年間を踏まえての、ソル

<sup>1</sup> ドイツにおける低金利環境下での BaFin の対応等については、基礎研レポート「[金利低下に保険監督当局はどう対応してきたのか —ドイツ BaFin の例—](#)」(2015.6.15) を参照していただきたい。

<sup>2</sup> 保険年金フォーカス「[ドイツの生命保険会社の状況\(1\)—BaFin の 2015 年 Annual Report より \(低金利環境下における状況、内部モデルの適用等\) —](#)」(2016.9.20)、「[ドイツの生命保険会社の状況\(2\)—BaFin の公表資料より \(ソルベンシーII 比率の状況\) —](#)」(2016.9.26)、「[ドイツの生命保険会社の状況\(3\)—IMF による FSAP の報告書「保険部門の監督」—](#)」(2016.10.3)、「[ドイツの生命保険会社の状況\(4\)—IMF による FSAP の報告書「ストレステスト」—](#)」(2016.10.4)

<sup>3</sup> 保険年金フォーカス「[ドイツの生命保険会社の状況\(1\)—BaFin の 2016 年 Annual Report より \(ソルベンシーII スタート後の1年間\) —](#)」(2017.10.10)、「[ドイツの生命保険会社の状況\(2\)—BaFin の 2016 年 Annual Report 等より \(ソルベンシーII 制度下での報告 \(含む ORSA\)\) —](#)」(2017.10.17)、「[ドイツの生命保険会社の状況\(3\)—BaFin の 2016 年 Annual Report 等より \(低金利環境下での生命保険会社の状況\) —](#)」(2017.10.24)

<sup>4</sup> 保険年金フォーカス「[ドイツの生命保険会社の状況\(1\)—BaFin の 2017 年 Annual Report より \(ドイツの生命保険監督のトピック \(その1\) —](#)」(2018.9.10)、「[ドイツの生命保険会社の状況\(2\)—BaFin の 2017 年 Annual Report 等より \(ドイツの生命保険監督のトピック \(その2\) —](#)」(2018.9.18)、「[ドイツの生命保険会社の状況\(3\)—BaFin の 2017 年 Annual Report 等より \(資本規制を巡る状況への対応及び 2017 年の生命保険会社の状況\) —](#)」(2018.9.25)

ベンシー II を巡るドイツの現状等について、複数回に分けて報告する。

まずは、今回は、2018 年の Annual Report の「スポットライト (Spotlights)」の章に記載されている項目の中から、主として生命保険の監督に関するトピックについて報告する。

## 2—2018 年のスポットライト

BaFin が 2018 年の「スポットライト (Spotlights)」の章に掲げている項目のうち、「1. 英国の EU 離脱 (Brexit)」、「2. 欧州レベルでの改革」、「4. ソルベンシー II の 3 年間 (Three years of Solvency II)」、「5. デジタル化 ( Digitalisation)」の 4 つの項目について、主として生命保険に関する内容を中心に、抜粋して報告する。なお、2017 年の Annual Report のスポットライトに挙げられていた「低金利 (Low interest rates)」については、2018 年の Annual Report のスポットライトでは取り上げられていない。また、1、2、5 の項目については、保険会社だけでなく、銀行や証券会社等を含めた金融機関全体の問題である。

### 1 | 英国の EU 離脱 (Brexit)

Brexit を巡る不確実性は、英国だけでなく、EU 各国にも大きな影響を与えることになる。

EU 各国の監督当局と政策立案者は、不確実性を考慮して、ノーディールのシナリオに対する準備もしなければならなかった。BaFin も消費者を保護することを目的として、Brexit が金融市場の機能と安定性に及ぼす可能性のある悪影響を最小限に抑えるために必要な立法を行っている。

「EU パスポートの権利」に関しては、金融市場の機能又は安定性に対する不利益を防ぐために必要な場合、設立の自由又はサービスを提供する自由の下でこれまでドイツで事業を行っていた英国に拠点を置く会社が、移行期間中、ドイツで EU パスポートの権利を引き続き使用できるようにした。

これに基づいて、会社は 2020 年末までに、既存の契約を整然と終わらせるか、法的に実行可能な将来の新しい構造に移転する、ことができることになる。

なお、Brexit に備えて、BaFin は数百の対一の議論を行い、規制の観点から何を期待するか、BaFin が監督者として設定した要件について、ドイツへの移転を検討している金融サービス事業者の説明するいくつかのワークショップを開催した、としている。また、BaFin は、このプロセスにおいて、適用される基準を希釈せず、無視できないことを繰り返し強調し、免許はその名前にふさわしいものでなければならず、レターボックス会社の受け入れの拒否を明らかにした、と述べている。

### 1. 英国の EU 離脱 (Brexit)

英国 (UK) が欧州連合 (EU) から離脱する可能性のある日付と条件に関する明確性の欠如は、規制当局及び監督当局にとっても大きな課題を提示した。不確実性を考慮して、監督当局と政策立案者は、ノーディールのシナリオの準備もしなければならなかった。この法律は、Brexit が金融市場の機能と安定性に及ぼす可能性のある悪影響を最小限に抑えることを目的としており、このようにして消費者を保護することも目的としている。BaFin は最初からこの法律の起草に関与していた。

#### EU パスポートの権利

この法律により、BaFin は、金融市場の機能又は安定性に対する不利益を防ぐために必要な場合、

設立の自由又はサービスを提供する自由の下でこれまでドイツで事業を行っていた英国に拠点を置く会社が、移行期間中、ドイツで EU パスポートの権利を引き続き使用できるようにすることができる。

これに基づいて、BaFin は、適切な場合、会社は 2020 年末までに、既存の契約を整然と終わらせるか、法的に実行可能な将来の新しい構造に移転することができることを認める。言うまでもなく、BaFin は、影響を受ける全ての企業がこのプロセスを支援するために全てのリソースを自由に展開することを期待している。

### 何百もの議論

Brexit に備えて、BaFin は数百の一对一の議論を行い、規制の観点からここに何を期待するか、BaFin が監督者として設定した要件についてドイツへの移転を検討している金融サービス事業者に説明するいくつかのワークショップを開催した。BaFin は、このプロセスにおいて、適用される基準を希釈せず、無視できないことを繰り返し強調した。免許はその名前にふさわしいものでなければならず、BaFin はレターボックス会社の受け入れを拒否することを明らかにした。

## 2 | 欧州レベルでの改革

欧州レベルでの改革のうち、欧州監督当局 (European Supervisory Authorities: ESAs) により計画された改革についてのスタンスが明確に示されている。

ESAs は、EU の既存の監督アーキテクチャの広範囲にわたる集中化、したがって根本的な変更、とりわけ ESAs の内部ガバナンスと資金調達の変更や直接監督権限の ESAs への移転等に焦点を当てた改革を計画していた。

ただし、BaFin はこれらの計画に批判的で、例えば「ESAs を国の管轄当局の監督者に変更することに対して警告し、そのような動きには事実上の正当性はない、と指摘した」と述べている。

## 2. 欧州レベルでの改革

### 2.1 欧州監督当局 (ESAs)

欧州監督当局 (ESAs) の計画された改革は、2018 年に BaFin が詳細に注意を払ったトピックのリストの上位に位置していた。2017 年 9 月、欧州委員会は、EU の既存の監督アーキテクチャの広範囲にわたる集中化、したがって根本的な変更を想定した、ESA 規制の修正案を提出した。この修正は、とりわけ、ESA の内部ガバナンスと資金調達の変更に焦点を当てた。別の目的は、これまで国家の責任であった直接監督権限の ESA への移転だった。その意図は、ESA が国家監督戦略と監督プロセスに介入できるようにすることだった。

#### 計画に批判的な BaFin

BaFin は、欧州委員会の計画を最初から批判的に見た。例えば、BaFin の Felix Hufeld 長官は、2018 年 5 月 3 日に開催された BaFin の年次記者会見で、「本質的に機能している何かをなぜ改定するのか」という質問を投げかけた。ESAs は、ほんのわずかな新しい権力を必要とした、と彼は説明した。それらを強化したい人々は、「とりわけ、彼らが既に持っている広範な力をより有効に活用できるようにすべきだ。」と続けた。

ESA の一部である欧州金融監督制度は、2010 年に、特に国家及び欧州の監督当局のネットワーク

として設立された。Hufeld氏は、ESAsを国の管轄当局の監督者に変更することに対して警告し、そのような動きには事実上の正当性はない、と指摘した。ESAsのメンバー主導の性格が成功することが証明されてきた、と彼は主張した。

### 3 | ソルベンシー II の 3 年間 (Three years of Solvency II)

欧州保険監督の大事業であるソルベンシー II については、計画通りにレビューが行われ、現在も継続されており、BaFinは、「2016年初頭に発効してから3年後、ソルベンシー IIによる進歩は、その限定的な影響を上回ると考えている」と述べている。

ソルベンシー II に対しては、「報告義務を果たすには多大な労力が必要であるとか、小規模の保険会社は不利な立場に置かれている」との批判もあるが、保険年金基金監督 CED (Chief Executive Director) の Frank Grund 博士は「ソルベンシー財務状況報告書 (SFCR)、定期的監督報告 (RSR) 及びリスクとソルベンシーの自己評価 (ORSA) から発生する報告義務の全体は、保険会社に、活動の重要な要素である顧客、ガバナンスシステム及びリスクプロファイルを詳しく調べることを強制している」というポジティブな評価を与えている。

また、「規則が比例的でないという非難はあまりにも一般的で、ソルベンシー II によって会社が有する課題を分析するには、差別化されたアプローチが必要だった」と述べている。

Grund氏は、ソルベンシー II によって、「保険会社のリスク管理システムが強化され、そのようなシステムの要件が欧州全体で標準化された」としている。ただし、全てが完璧ではないことも認めており、「例えば、一部の報告要件では、規模を簡素化及び縮小することでメリットが得られる」と述べた。

Grund氏はまた、マイナス金利へ対応として、「金利リスクを再評価すべきである」との EIOPA の勧告を支持すると述べた。さらに、「立法者が、ソルベンシー II レビューを、持続可能性プロジェクトを促進するためのインセンティブとして長期契約の資本救済を導入する機会として使用する場合、適切なリスク管理が究極のベンチマークであり続けることを、監督の観点から確保する必要がある」と警告した。

### 4. ソルベンシー II の 3 年間

欧州の監督制度であるソルベンシー II は、計画通りにレビューされ、現在も継続されている (25 ページの情報ボックス「ソルベンシー II のレビュー」を参照)。BaFin は、2016年初頭に発効してから3年後、ソルベンシー II による進歩は、その限定的な影響を上回ると考えている。批評家は、報告義務を果たすには多大な労力が必要であるとか、小規模の保険会社は不利な立場に置かれていると主張している。

保険年金基金監督 CED (Chief Executive Director) の Frank Grund 博士は、次のようにコメントしている。「私は、ソルベンシー財務状況報告書 (SFCR)、定期的監督報告 (RSR) 及びリスクとソルベンシーの自己評価 (ORSA) から発生する報告義務の全体は、保険会社に、活動の重要な要素である顧客、ガバナンスシステム及びリスクプロファイルを詳しく調べることを強制している、というポジティブなことを述べることで批判に応えたい。」

#### 包括的批判

規制が非比例的であるという非難さえあまりに一般的だ、と Grund 氏は述べた。ソルベンシー II

によって会社が有する課題を分析するには、差別化されたアプローチが必要だった。背景は、ソルベンシーⅡが特定の臨界値に達する保険会社にのみ適用されることである。さらに、二重比例の原則は、規制と監督実務におけるその適用が、会社のリスクの性質、規模及び複雑さを考慮しなければならないことを意味している。監督下の会社においても、規制要件を満たすために必要な労力と会社のリスクプロファイルとの間に合理的なバランスが必要だ。

### 欧州市場のメリット

Grund氏は、欧州市場向けのソルベンシーⅡが達成したことは、保険会社のリスク管理システムが強化され、そのようなシステムの要件が欧州全体で標準化されたことだと考えている。しかし、彼は全てが完璧ではないことを認めた。例えば、一部の報告要件では、規模を簡素化及び縮小することでメリットが得られる。

彼はまた、金利リスクを再評価すべきであるというSCRレビュー中にEIOPAが欧州委員会に行った勧告への支持を表明した(25ページの情報ボックス「2020レビュー」を参照)。現在の標準式はマイナスの利子率を認識していなかったため、現実モデルと内部モデルの両方とは関係がなくなった。例えば、立法者が、ソルベンシーⅡレビューを、持続可能性プロジェクトを促進するためのインセンティブとして長期契約の資本救済を導入する機会として使用する場合、適切なリスク管理が究極のベンチマークであり続けることを、監督の観点から確保する必要がある。

### 一目で

#### ソルベンシーⅡレビュー

2018年に開始されたソルベンシーⅡのレビューの一環として、欧州委員会は、ソルベンシーⅡの実施規定を含む委任規制の改訂版を発表した。これに関連して、欧州委員会は、欧州保険年金監督局(EIOPA)による金利リスクに関する勧告を採用しなかった。金利リスクは現在、2020年の一般的なレビュー(2020レビュー)プロセスの対象となっている。BaFinは、金利リスクを更新することが緊急に必要であると考え続けているため、EIOPAの提案を支持している。委任規則の改訂版では、様々なリスク要因の再調整が規定されている。BaFinは、カウンターパーティのデフォルトリスクなどの個々のリスクモジュールの簡素化も想定していることを歓迎している。欧州委員会は、2019年3月8日に欧州委員会と欧州議会に修正委任規則を提出した。その後、後者は3か月の期間に反対する権利を有している。

#### 2020年のレビュー

欧州委員会が2020年以降に検討しなければならないソルベンシーⅡの構成要素には、標準式に基づいてソルベンシー資本要件(SCR)を計算する際に使用される、長期保証と株式リスクに対する措置、方法、仮定、標準パラメータ、そして最小資本要件(MCR)を計算するための規則及び監督当局の慣行が含まれる。さらに、グループの監督とグループ内の投資管理を強化する利点についても調査中である。欧州委員会はEIOPAに対応する助言を求めている。

## 4 | デジタル化(Digitalisation)

「デジタル化」については、BaFin の 2018 年 Annual Report における最大のトピックになっており、Felix Hufeld 長官の意見表明を含めて、最も多くのページが割かれている。2017 年の Annual Report においても多くのページが割かれていたが、さらに 1 年間を経て、2018 年 Annual Report においては、いくつかの重要な進展があったことが報告されている。

### (1) Felix Hufeld 長官の意見表明

BaFin の Felix Hufeld 長官は、冒頭の意見表明において、「金融監督と金融のデジタル化」についての意見を述べている。

これによれば、現在の金融業界全体の急速な変容の主たる推進力がデジタル化であるとし、BaFin の重要な目標が、進歩的なデジタル化を含むドイツ金融市場の機能、安定性、完全性を確実にすることであることから、デジタル時代に完全に備えることを保証する為に、デジタル化戦略を策定した、と述べている。

このデジタル化戦略については、3つの要素で構成される、としている。

第 1 の要素は、「**監督と規制**」を中心にしており、デジタル化とその金融市場への影響を適切に分類及び評価することであり、このために金融技術革新部門(SR 3)を中心とした BaFin 全体の専門家ネットワークを確立したとしている。さらに、学者やコンサルティング会社と共同で、レポート「Big Data meets artificial intelligence(ビッグデータは人工知能に出会う)」<sup>5</sup>を編集し、テーマの明確化を図ったとしている。今後は、緊急性と重要性に基づいて、これらに優先順位を付けて対処する予定としている。なお、別の重点分野として、暗号トークンを取り巻く新たに出現した問題を挙げている。

第 2 の要素は、「**監視対象企業のテクノロジーと IT システムのセキュリティ**」を中心にしており、これについては、BaFin は現時点では、主に IT ガバナンスから、情報とセキュリティ管理、さらに IT サービスのアウトソーシングへの予防に焦点を当てているとしている。BaFin は、金融機関の IT の監督要件(Bankaufsichtliche Anforderungen an die IT – BAIT)<sup>6</sup>及び保険会社の IT の監督要件(Versicherungsaufsichtliche Anforderungen an die IT – VAIT)<sup>7</sup>を策定し、欧州の規制コミュニティで道先導している、と述べている。さらに、「レッド・チーミング(red teaming)」と呼ばれる金融セクター向けのサイバーストレステストが重要な役割を果たす、としている。

第 3 の要素は、「**BaFin 自体のデジタル化**」であり、これは既存の紙ベースのプロセスをデジタル化することを意味するだけでなく、プロセス全体の再考と定義が含まれ、それらの中のワークフローを最適化するために、可能な限り最高のデジタルツールを使用する、と述べている。チーフデジタルオフィサー(CDO)を新たに設定し、電子ファイル管理システムを実装する「Zeus」プロジェクトや、監査役会や上級管理職のメンバーのような個人に関する詳細の処理に焦点を当てた「Gaia」プロジェクトを推進している、と述べている。なお、これらの目的の1つとして、「デジタルテクノロジーを使用して、大量のデータの評価における BaFin の分析能力を向上させる」ことが挙げられている。

<sup>5</sup> [https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/EN/dl\\_bdai\\_studie\\_en.html?nn=9866146](https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/EN/dl_bdai_studie_en.html?nn=9866146)

<sup>6</sup> 英語版 [https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/EN/Rundschreiben/dl\\_rs\\_1710\\_ba\\_BAIT\\_en.html?nn=9866146](https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/EN/Rundschreiben/dl_rs_1710_ba_BAIT_en.html?nn=9866146)

<sup>7</sup> 英語版 [https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/EN/Rundschreiben/dl\\_rs\\_1810\\_vait\\_va\\_en.html?nn=9866146](https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/EN/Rundschreiben/dl_rs_1810_vait_va_en.html?nn=9866146)

## (2) スポットライトでの記述内容

### (2-1) IT 監督の 3 段階計画

BaFin は、IT 監督業務のための 3 段階のプログラムを開発している。

ステージ 1 には、様々な監督領域の会社に対して同等の IT 要件が策定される一連のフレームワークが含まれ、これには、BaFin が IT セキュリティの選択された分野で銀行と保険会社に期待することを詳細に設定した金融機関の IT の監督要件 (BAIT) や保険会社の IT の監督要件 (VAIT) が含まれる。さらに、BaFin は 2018 年 11 月にクラウドプロバイダーへのアウトソーシングに関する追加のガイダンスを公開<sup>8</sup>した。

ステージ 2 は、銀行がサイバー攻撃に対する耐性を高め、ビジネス継続性を維持する能力を支えることを目的としている。2018 年末以降、BaFin とドイツ連邦銀行は、サイバーストレステスト (レッドチームテスト) の実装の可能性に取り組んできた。

ステージ 3 には、銀行の危機管理の改善が含まれる。BaFin は、緊急テストを含む緊急管理に関するモジュールを追加することにより、BAIT を拡張することを計画し、サイバードリルも対象になっている。

### (2-2) BaFin のデジタル化戦略

これについては、「(1) Felix Hufeld 長官の意見表明」の中で、詳しく触れたので、ここではそこで述べられなかった項目を報告する。

増加するデジタル化とビッグデータ及び人工知能 (BD AI) 現象が、金融市場を目に見えて変化させており、この市場の信頼の強固な基盤を作ることが BaFin の役割であるとしている。

BaFin は、2018 年 8 月のデジタル化戦略の採用にあたり、以下の 3 つの基本的な問題を定義している。

- デジタル化によって引き起こされる市場の変化に対する監督上及び規制上の対応はどうあるべきか？
- BaFin は、監督下の会社が使用する革新的な技術、IT システム及びデータの安全性をどのように確保できるのか？
- 進行中のデジタル化プロセスに照らして、BaFin 自体は、社内及び市場とのインターフェイスの両方で、どのように開発を続ける必要があるのか？

BaFin は、デジタル化戦略の中で、これら 3 つの分野でどの方向に進む予定かを明らかにしている。

### (2-3) BaFin レポート「ビッグデータと人工知能が会う」

BaFin は、「デジタル化によって引き起こされる市場の変化に対する反応はどうあるべきか？」という問題について、「Big data meets artificial intelligence Challenges and implications for the supervision and regulation of financial services (ビッグデータが人工知能に出会う: 金融サービスの監督と規制の課題と意味合い)」<sup>9</sup>というレポートで検討している。このレポートは、BaFin が戦略的傾向、市場動向、新たに発生するリスクを早期段階で特定し、適切に対応できるようにする包括的な画像を取得することを目的とし、消費者を含む多くの規制及び監督の観点から、技術主導の市場開発の影響を調査している。

レポートでは、BaFin は、プロセスの自動化が加速している場合でも、経営陣が責任を負っていることをもう一度明確にしている。顧客は、明らかにしたデータの価値とそのデータを誰が使用できるかについて、もっ

<sup>8</sup> [https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/DE/Merkblatt/BA/dl\\_181108\\_orientierungshilfe\\_zu\\_auslagerungen\\_an\\_cloud\\_anbieter\\_ba.html](https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/DE/Merkblatt/BA/dl_181108_orientierungshilfe_zu_auslagerungen_an_cloud_anbieter_ba.html)

<sup>9</sup> [https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/EN/dl\\_bdai\\_studie\\_en.pdf?\\_\\_blob=publicationFile&v=11](https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/EN/dl_bdai_studie_en.pdf?__blob=publicationFile&v=11)

と認識させられる必要がある。消費者の信頼が BDAI イノベーションの成功の鍵である、としている。

また、この調査は、ビッグデータと人工知能が既存の市場参加者と潜在的な新しい市場参加者の両方に大きな競争機会をもたらすことを示している。

なお、このレポートは、公開協議に付され、そのフィードバックやそれらの回答の概要も公開されている<sup>10</sup>。

## (2-4) BaFinPerspectives 出版シリーズ

BaFin は、2018 年 8 月から、ビッグデータと人工知能の監督及び規制上の扱いに焦点を当てた BaFinPerspectives シリーズ<sup>11</sup>を発行しているが、その中で、デジタル化のトピックや持続可能な金融に関する問題を取り扱ってきている。

BaFinPerspectives シリーズには、内部及び外部の著者及びインタビューからの貢献が含まれており、「このような複雑で相互接続された環境では、消費者保護組織、学界の専門家、ジャーナリストに加えて、金融セクターとその業界団体の代表者との監督と規制における基本的な問題に関するさらに大きな情報交換が必要だ。」としている。

BaFinPerspectives の記事は、戦略的な問題や規制プロジェクトにスポットライトを当て、日々の報告を超えて、様々な観点から分析することを目的としている。

## 5. デジタル化

### 5.1 銀行及び保険会社の IT 監督

デジタル化の増加は、金融部門の会社を脆弱にしている。業界は密接に関連しているため、1 つの会社における IT インフラストラクチャの障害は、他の市場参加者に広がり、極端な場合には、金融の安定性を脅かすことさえある。金融セクターの会社と協力して効果的な防止策に取り組むために、BaFin は組織全体に重要なスキルをプールし、2018 年に IT 監督、支払取引及びサイバーセキュリティ総局 (GIT) を設立した。セクターでは、とりわけ、デジタル化におけるサイバーセキュリティに関連する契約問題、支払機関及び電子マネー機関の監督、IT 監督及び検査体制に関連する政策問題、銀行、保険会社、ドイツの資産管理会社における IT 検査に焦点を当てている。

#### IT 監督の 3 段階計画

BaFin は、IT 監督業務のための 3 段階のプログラムを開発した。

ステージ 1 には、様々な監督領域の会社に対して同等の IT 要件が策定される一連のフレームワークが含まれる。2017 年 11 月に発行された金融機関の IT の監督要件 (BAIT) に加えて、これには保険会社の IT の監督要件 (VAIT) も含まれる (情報ボックス「VAIT -保険会社の IT の監督要件」を参照) 26 ページ)。

BAIT と VAIT は、BaFin が IT セキュリティの選択された分野で銀行と保険会社に期待することを詳細に設定した。VAIT での要件は、BAIT での要件と同様である。両方の文書で、BaFin は IT セキュリティが管理上の問題であることを明確に述べている。したがって、この通達は、IT サービスがス

<sup>10</sup> 英語版 [https://www.bafin.de/SharedDocs/Veroeffentlichungen/EN/BaFinPerspektiven/2019\\_01/bp\\_19-1\\_Beitrag\\_SR\\_3\\_en.html](https://www.bafin.de/SharedDocs/Veroeffentlichungen/EN/BaFinPerspektiven/2019_01/bp_19-1_Beitrag_SR_3_en.html)

<sup>11</sup> [https://www.bafin.de/EN/PublikationenDaten/BaFinPerspektiven/AlleAusgaben/BaFinPerspektiven\\_alle\\_node\\_en.htm](https://www.bafin.de/EN/PublikationenDaten/BaFinPerspektiven/AlleAusgaben/BaFinPerspektiven_alle_node_en.htm)

ピンオフ又は調達されたときに発生する可能性のあるリスクを含め、経営層のメンバー間の IT リスクの認識を高めることも目的としている。

クラウドプロバイダーへの活動をアウトソーシング又はスピンオフする際の不確実性を最小限に抑えるために、BaFin は 2018 年 11 月にクラウドプロバイダーへのアウトソーシングに関する追加のガイダンスを公開し、BAIT 及び VAIT を補足した（26 ページの情報ボックス「クラウドプロバイダーへのアウトソーシングに関するガイダンス」を参照）。2019 年中に協議のために配布される予定の別の文書は、資産管理会社の IT の監督要件（KAIT）であり、ドイツの資産管理会社のより詳細な要件を定めている。

ステージ 2 は、銀行がサイバー攻撃に対する耐性を高め、ビジネス継続性を維持する能力を支えることを目的としている。この段階では、既存のセーフガードの有効性に焦点が移る。2018 年末以降、BaFin とドイツ連邦銀行は、サイバーストレステスト（レッドチームテスト）の実装の可能性に取り組んできた。

ステージ 3 には、銀行の危機管理の改善が含まれる。機関だけでなく、BaFin も常にサイバー攻撃又は IT セキュリティ事象に備えなければならない。したがって、BaFin は、緊急テストを含む緊急管理に関するモジュールを追加することにより、BAIT を拡張することを計画している。サイバードリルも対象になる。危機的な状況で、国内及び国際的に協力して行動する全ての関係者が関与する。

2018 年 11 月に開催されたスピーチで、BaFin の Felix Hufeld 長官は銀行に対して批判的だった。「ドイツ及び他の欧州諸国の多くの機関は、依然としてサイバー衛生に苦勞している。別の問題は、全ての銀行がサイバー攻撃を検出し、遅すぎないうちに脅威を特定するために、十分なお金を費やしていないことだった。さらに、サイバーリスク管理は多くの場合に望まれるものが多く残っていた。また、銀行が IT リスクに対処したとき、銀行は人ではなく主にテクノロジーに焦点を当てていたことも注目に値した。

## 一目で

### クラウドプロバイダーへのアウトソーシングに関するガイダンス

2018 年 11 月、BaFin は Web サイトでクラウドプロバイダーへのアウトソーシングに関するガイダンスを公開した。このガイダンス通知では、BaFin とドイツ連邦銀行は、これらのアウトソーシングのケースにおける現在の監督上の慣行を説明している。監督当局はまた、契約条項の中で異なる種類の文言をどのように評価するかを明確に示した。さらに、クラウドサービスの使用時に発生する可能性のある問題と、その結果として生じる監督上の要件について、監督下での取り組みの中で認識を高めたいと考えている。

クラウドサービスに関するガイダンス通知には、新しい要件は含まれていない。したがって、アウトソーシングの既存の要件は変更されない。例えば、クラウドプロバイダーへのアウトソーシングには、データのアウトソース時に管理者の責任をクラウドサービスプロバイダーに移してはならないという一般的なルールも適用される。このガイダンスは、信用機関、金融サービス機関、保険会社、年金基金、投資会社、資産運用会社、支払い機関、電子マネー機関を対象としている。

## 5.2 BaFin のデジタル化戦略

増加するデジタル化とビッグデータ及び人工知能（BDAI）現象は、金融市場を目に見えて変化させている。ただし、この市場は、他の市場よりも機能、安定性、完全性を信頼する能力に依存しているため、従来の方法を使用して規制及び監督されている。BaFin の役割は、この信頼の強固な基盤を作ることである。このため、2018年8月にデジタル化戦略を採用し、3つの基本的な問題を定義している。

- ・デジタル化によって引き起こされる市場の変化に対する監督上及び規制上の対応はどうあるべきか？
- ・BaFin は、監督下の会社が使用する革新的な技術、IT システム及びデータの安全性をどのように確保できるのか？
- ・進行中のデジタル化プロセスに照らして、BaFin 自体は、社内及び市場とのインターフェイスの両方で、どのように開発を続ける必要があるのか？

BaFin は、デジタル化戦略の中で、これら3つの分野でどの方向に進む予定かを明らかにしている。それらのいずれでもゼロから始まっていない。BaFin は既に多くの分野で、デジタルで働き、考えているが、特にデジタル化の分野では、じっとしているのは間違っている。これが、デジタル化戦略が確定されたものではなく、BaFin が定期的にそれを再考し修正する理由である。この点で重要な役割を果たすのは、新しいチーフデジタルオフィサー（CDO）である。この最高責任者は、BaFin の内部デジタル化を推進し、戦略全体のさらなる発展を調整する。

## 5.3 BaFin レポート「ビッグデータと人工知能が会う」

それでは、デジタル化によって引き起こされる市場の変化に対する反応はどうか？ 他の方策の中でも、BaFin はこの問題を「ビッグデータが人工知能に出会う：金融サービスの監督と規制の課題と意味」というレポートで検討している。Partnerschaft Deutschland、Boston Consulting Group (BCG) 及び Fraunhofer Institute for Intelligent Analysis and Information Systems (IAIS) も協力した。目的は、BaFin が戦略的傾向、市場動向、新たに発生するリスクを早期段階で特定し、適切に対応できるようにする包括的な画像を取得することだった。このレポートは、消費者を含む多くの規制及び監督の観点から、技術主導の市場開発の影響を調査している。

「結果は、監督上及び規制上の観点からこれらの問題に取り組むことがどれほど重要であるかを明確に示している」と BaFin の Felix Hufeld 長官は強調した。金融データの分野での革新競争はすでに始まっていた。そして、BDAI 企業への体系的な依存関係が規制の枠組みの外で発生する可能性があることはすでに明らかになってきていた。

### 究極の責任は常に人々にある

レポートでは、BaFin は、プロセスの自動化が加速している場合でも、経営陣が責任を負っていることをもう一度明確にしている。BaFin は、消費者保護の観点から重要な結論を導き出すこともできると考えている。顧客は、明らかにしたデータの価値とそのデータを誰が使用できるかについて、もっと認識させられる必要がある。消費者の信頼が BDAI イノベーションの成功の鍵であるため、BDAI

のユーザーもそれを念頭に置く必要がある。

観点から見ると、この調査は、ビッグデータと人工知能が既存の市場参加者と潜在的な新しい市場参加者の両方に大きな競争機会をもたらすことを示している。これらの機会は主に、現在これらのテクノロジーによって可能になっているバリューチェーンの分解の増加に起因している。

#### レポート協議

BaFin は、レポート「ビッグデータは人工知能に出会う」と、2018年9月末まで公開協議のために含まれる主要な質問を提出した。

BaFin は、そのレポートについて多くのフィードバックを受け取った。協議プロセスの参加者には、主唱者グループだけでなく、個々の機関、国内及び国際機関、学界の代表者も含まれていた。回答の概要は、2019年2月28日に [www.bafin.de](http://www.bafin.de) で公開された BaFin Perspectives シリーズの第2号に記載されている。

### 5.4 BaFin Perspectives 出版シリーズ

2018年8月、BaFin は、BaFin Perspectives シリーズの最初の号を発行した。この問題は、とりわけ、ビッグデータと人工知能の監督及び規制上の扱いに焦点を当てている。BaFin Perspectives の第2号は2019年2月28日に発行された。また、デジタル化のトピックにも取り組んでいる。持続可能な金融に関する次の問題は、5月9日に予定されている。

#### インパクトを与える

BaFin Perspectives シリーズには、内部及び外部の著者及びインタビューからの貢献が含まれている。シリーズはドイツ語 (BaFin Perspektiven) と英語で BaFin の Web サイトに公開されている。BaFin の Felix Hufeld 長官は、危機後の時代の主要な規制の枠組みは現在確定されてきているが、金融セクターの変化はまだ進行中である、と述べて、BaFin Perspectives に影響を与えたい、と考えている。グローバリゼーションとデジタル化の時代に、彼は、これはさらに勢いを増すだろう、と述べている。その結果、監督者と規制当局は、これまで以上に複雑な問題に直面し、従来の法律及び経済学の分野を超えて、情報技術などの新しい分野に導かれている。

「このような複雑で相互接続された環境では、消費者保護組織、学界の専門家、ジャーナリストに加えて、金融セクターとその業界団体の代表者との監督と規制における基本的な問題に関するさらに大きな情報交換が必要だ。」BaFin Perspectives の記事は、戦略的な問題や規制プロジェクトにスポットライトを当て、日々の報告を超えて、様々な観点から分析することを目的としている。

## 3—まとめ

以上、今回は、BaFin の 2018 年の Annual Report の「スポットライト (Spotlights)」の章に記載されている項目の中から、「1. 英国の EU 離脱 (Brexit)」、「2. 欧州レベルでの改革」、「4. ソルベンシー II の 3 年間 (Three years of Solvency II)」、「5. デジタル化 (Digitalisation)」の 4 つの項目について、主として生命保険に関係する内容を中心に、抜粋して報告してきた。

Annual Report については、過去の結果報告が中心になっている部分も多いが、ドイツの生命保険

業界が抱えている各種の重要課題に対する監督当局である BaFin のスタンスや考え方、あるいは今後の方向性等について窺い知るための有用な情報を提供している。

次回のレポートでは、Annual Report の「統合監督 (Integrated supervision)」の章に記載されている項目からの抜粋を報告する。

以 上